

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300033		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホームまみや		
所在地	静岡県田方郡函南町間宮891番地の1		
自己評価作成日	平成24年11月25日	評価結果市町村受理日	平成25年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&amp;JiyosyoCd=2290300033-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&amp;JiyosyoCd=2290300033-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年12月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋でゆとりのある1ユニットのグループホームです。共有スペースに洗面・トイレ・お風呂があります。外にはテラスがあり、そこに座り日光浴もでき、また隣には公園があり、子供の遊び声が聞こえ、心とみ、ゆっくりとした時間を過ごせる環境です。函南町間宮の近隣の人たちのご理解とさまざまな応援に支えられ、「その人と共にある」を常に想い、ご家族をはじめ、地域の方々と連携をとりながら職員一同、地域福祉のために努力してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人のデイサービスやヘルパーステーションなど他に5つの事業所が近隣に立地しており、ちょうど真ん中に位置するかのよう「訪問看護事業所」を召致するとともに、事業所の協力医も2名に増やし、医療連携が充実したことが本年の大きなトピックスです。三島市指定文化財である「豆州志稿」をまとめた秋山富南(章)の直系である代表者は、先祖の意思を受け継いでいて、地域貢献に余念がありません。そのため、職員も運営規定の1~2名の余裕をもって配置したり、障がいをもった人を積極的に採用するなど、地域福祉に貢献しようという姿勢ある事業運営がみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人たちと共にゆったりゆっくと第三の人生を共に歩む。」理念に向けて、ゆったりとした空間、ゆっくりとした時間を公平・平等に提供できるように日々取り組んでいます。	川べりにある平屋の造りの事業所は在り様がそのまま「ゆったり、につながっています。また、職員配置が規定より1~2名多いことも「ゆっくり、」ができる要因です。すべての職員が利用者に対して常に同調できているとはいえないとのことですが、配慮のある場面を視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組に所属し自治会の行事に参加したり、町内清掃を一緒に行ったりしている。近隣の農家から花や野菜を頂いたりして交流がある。	隣にある「ゾウさん公園(通称)」、や目の前のゲートボール場には幼稚園生や近隣の高齢者の皆さんが集う機会が多く、事業所のトイレを頼りにする人もいます。親切で協力的な地域であるため、野菜のおすそ分けなど日々の心遣いに気持ちの面でも事業所は助けられています。	傾聴ボランティアなど、定期訪問者の開拓も期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営会議の中で地域包括支援センターと共に認知症ケアの勉強会や、地域の高齢化を支えるための学習会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット・事故報告・行事など、議題を設定し行っている。入居者のサービス状況を報告し、助言をもらいサービス向上につなげている。また職員が持ち回りで議題を発表している。	区長、副区長、包括、民生委員、家族、利用者と、多様な参加者を得て開催されていますが、現在は3ヶ月に1度の取り組みとなっています。参加の促進とともに事業所を理解してもらうことにもつながるとして、感染症対策の講習や敬老会との抱き合わせなど、工夫に努めています。	感染症対策の講習などは地域の皆さんにも有益な内容と思われ、今後は事前にお知らせし、地域連携につながることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告や介護保険関係での報告・連絡・相談をおこなっている。	町内に地域密着型は4事業所あるも、運営推進会議には包括の職員が必ず参加してくれ、貴重な意見や有意義なアドバイスをもらっています。市の参加はありませんが、市からの申し入れで食事付掃除ボランティアも受け入れており、円滑な関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をおこない理解を深めている。身体拘束にあたるようなときには、家族と相談し要望があった場合に、期間、解除条件等を書面に残す。	県主催の研修会を経て廃止推進員となった職員を中心に、マニュアルや仕組みを整備しています。職員の利用者対応に凸凹が多少あり、管理者はケース毎にその都度マンツーマンで指導していて、利用者の意思やADLを把握した「待つ」対応のできる職員の姿も視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開き、理解を深めている。ユニット会議でも議題にあげ、職員の言動が虐待になっていないか指導している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を開き、理解を深めている。制度が必要な場合は、包括支援センターおよび高齢者福祉課と連携をとり支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には必要書類を確認し、納得して頂いた上で契約を結んでいる。身体状況の変化により必要になってくる物品や費用の負担増など都度説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、入居者とも運営推進会議に参加して、意見交換をしている。面会時など、話す機会を持ち、日ごろから意見・要望を聞いている。	毎月請求書と一緒に日頃の様子を写真と手書きのメッセージを添えて送っています。居室料を1万8千円下げたことで新たなパンフレットを刷ったところ、家族が近所や知り合いに配ってくれており、良好な関係が覗えます。法人全体で取り組む夏まつりには本年もほぼ全員の家族が参加してくれました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 代表者はリーダー会議において管理者との意見交換をおこなっている。	マニュアルも職員の手による修正が加えられたり、勤務体制も職員意見の反映の跡がみられます。家族の病気や個人事情に係る就労時間など個人の相談は管理者が随時受けています。障がいをもった職員をメンバーとする不平も管理者が収束し、チームワーク形成にも努力が実りつつあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の分配状況、給与明細の見方を作成し開示している。各々の職員の職務における達成度について評価を行ったり、資格習得における個々の向上心を把握し処遇につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせ研修に参加している。内部研修では実務を学ぶ研修がある。研修内容をもとに勉強会を開催し、内容を共有しスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターでの研修参加などを通じて情報を共有している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、様々な職員と本人が、なるべく多くかかわれる時間を作り、日常生活だけでなく外出時や居室内で要望を聞く機会を設けている。生活を送りながら本人の様子観察し、気持ちをくみ取る努力をしている。困っていることや要望は、記録に残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、契約時に困っている事や要望を聞いている。今までの体験談から思いを聞き、今後の方向性を話し合っている。在宅復帰・他施設入居・ターミナル等の相談に乗っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時より、グループホームでの生活が適しているか評価を行い、本人・家族のニーズを捉え必要に応じ他事業の情報を提供し、他サービス利用も視野に入れた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事などをし、共に日々の生活を通して、支えあう関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ面会時や電話、家族への手紙などで本人の様子を伝え現状を共有し、行事や外出、受診、日常生活内の援助方法を職員のみが考えるのではなく、一緒に考え支援するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友達が気軽に施設に遊びに来られるように、入居当初と変わらず関係が続けていられるように支援している。	教師だった利用者の教え子や在宅でのご近所、遠方の親戚などの訪問があります。行きつけだったスーパーで職員と珈琲を楽しんだり、また暑中見舞いなどお手紙支援もしています。また、飲酒を好む利用者にはノンアルコールビールを備えて、希望に添えるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格、能力を把握し、協力して過ごせるよう援助している。外出や協力時、入居者同士の相性等考え支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご家族が来てくれたり、電話で近況を知らせてくれる。多施設へ退去される方の関係者に情報提供し、その後の面会に行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、表情、様子から、本人の望む生活ができるように努力している。外出や入浴、望みの場所へも付き添えるように努力し、家族にも協力をしてもらっている。	職員の気づきは「介護記録」に記載し、さらに会議を通じて情報を共有しています。日々の気づきから歯科医師の協力も得て食事を再検討し、とろみや刻みの食事形態だった利用者が常食へと向上した例もあります。新聞のチラシをみて「お刺身が食べたい」という声が上がリ、行事食や外食で応えることも頻繁にあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生まれから職業、家族関係、交友関係、趣味など、できるだけ本人の周りの情報を家族や、友人、居宅等から得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に生活記録・業務日誌・生活チェック表など記入し、申し送ることで暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの中で入居者の課題があがったり、ケアの内容を相談したいときは、サービス担当者会議・カンファレンスをし意見を出し合い現状に即したものになっている。	職員がさらに責任感をもって取り組むよう、本年から担当制を導入しています。まずは担当の利用者のアセスメントをとることから始めています。プランを立てることができるような職員に育てたいと管理者は願っていて、数名の職員は介護福祉士の試験対策も抱合してプラン作成に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子と新たな気づき、いつもと違う状況を個別に記録し、朝夕申し送り情報を共有し、かつ介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添い、市役所の手続きの代行、本人の室内履きの購入や本人宛に届いた封書は家族にその都度郵送するなどその時に応じた多様なニーズに対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の馴染みのお店や、普段から通っている理美容を定期的に利用するときに行きするなどの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人と家族の希望に沿って決めている。事業所の協力医として訪問診療の医師を招聘した。	協力医は往診があるため、替える家族が多くあります。また、本年は夜間オンコールで看護師が駆けつけてくれるサービスも法人が導入しました。歯科医と歯科衛生士の訪問も週1回あり、ブラシの当て方や口腔体操も教えてもらえ、助かっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携により日常の健康管理をしており、24時間の連絡ができる体制を取っており、緊急時には協力病院との医療連携体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院前の体調変化やバイタルチェック、ADL等情報提供し、面会時や電話で病院関係者と連携しあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルの説明を行い終末期の希望を聞き、職員・家族共に共有している。契約更新時・状態変化時に家族の意向を確認し、職員間でも話し合い、方針をたてている。	開設から1年に満たない時期で看取りに取り組むことになり、1例の実績があります。職員は看取りに真摯に向き合い、それなりの達成感もあり、事業所としても今後も取り組む考えています。契約時には「たとえ入院しても戻りたい希望があれば…」と、家族に受入の意思も伝えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、いつも目のつくところに置き確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の災害時の訓練、緊急連絡網を作成し通信・連絡方法の職員訓練を行っている。風水害や地震を想定した避難マニュアルを作成し、運営推進会議でも防災の話をしている。	地域の皆さんからは「何かあれば」車いすを押しましようか」といった温かい声をかけてもらっていて、事業所も災害時には避難場所として提供することを地域へ伝えています。本年は備蓄米を30キロから50キロに増やし、また防災倉庫を設置しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの動作に注意し、その日の体調を把握し、その時その場面に適した言葉かけなどの対応をしている。目や耳の不自由な人には、その人に合ったさりげない介助に徹している。	名字でさんづけで呼ぶことや、羞恥心に係る事柄は小声にするなど、基本的な対応はできています。ただし、職員個人の性格や判断による対応がみられることもあり、管理者は全員の「敬意をもった礼節、への浸透に向け、個人面談などに取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、身振り手振りなどの動作などから本人の思いを受け止め、一人ひとりの表したいことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入床、食事時間、入浴など本人の希望やペースに合わせている。職員の都合で行うのではなく、本人の意向に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々着用している衣服は自ら選んでいる。髪の毛のカットは一人ひとりの要望で美容室へ行くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食べられないものを把握し、別のものに変え提供している。一人ひとりの能力に応じ、実践している	食材は業者から仕入れていて、調理専門の職員が主菜、副菜2品、デザート添えの彩りあるメニューを提供しています。職員配置が潤沢なため、マンツーマンで食事介助や会話のある昼食時間を過ごしていることを視認しました。行事食や外食も月1回程度おこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎回記録している。水分摂取の少ない方には、ゼリーや好みの飲み物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週木曜日の訪問歯科により口腔状態の説明や指導を受け、本人が磨いた後に磨き残しの無いように支援している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンをチェックして誘導することで失敗を少なくしている。必要最低限の排泄用品ですごせるように支援している。	排泄のタイミングを掴んで誘導していて、また会議でも状態変化について職員間で討議し、オムツからリハパンに向上した利用者もいます。オムツは町からの支給もありますが、家族の負担も考えコスト削減についても考慮していて、パットの大きさなど検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事後にトイレに入ることで排便を習慣づける 散歩や室内での運動を心がけている バランスの良い食事と水分補給を行い、おやつに果物を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の設定日があり入っているが、本人の入りたいとの希望があるときはいつでも入ってもらっています	清潔保持の観点から週2日は入ってもらうように組んでいますが、希望者は毎日入ることができます。季節を考えた入浴剤を備えていて、現在は「ゆず」を使っています。職員がマンツーマンで対応しているため、ゆっくり会話をしたり歌が聞こえてくることもあります。足拭きマットは人毎に替えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせた活動性のある支援を行い、メリハリのある生活により安眠や休息につながるようにしています。本人の不安や不眠の原因をみんなで話し合い改善へ導く努力をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合、服薬管理票を活用し、口頭と書面で申し送り、目的・副作用・注意点なども確認・共有している。薬説明書も個別にファイルしてあり、確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に沿って、また希望に応じて新聞を取ったり、カレンダー交換、ごみ捨て等の役割をもち、花見や外食、催し物などへの参加も個々に呼びかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は希望時行っている。歩行困難な方も車いす対応で花見などに行っている。できるだけ希望に沿った外出ができるよう心がけている。	天候がよければ1日1回は戸外にできるようにして散歩コースも数種類あります。花見などドライブも月1回おこなっています。介護度4と5の利用者をはじめ外出の際には車椅子という人が8割強の状況のなか、水族館やショッピングセンターなど意欲的に出かけています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は本人が所持している。買い物などに同行した際は、買い物のお支払いのできる方は本人が支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月ごとに家族へ行事予定や近況報告を写真を載せて送っている。電話をかけたい方、自室に携帯電話を設置している方は、自由にやり取りができるような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の立場になって、空調、採光、家具、音楽等の空間作りに心がけている。季節ごとに飾りつけを行い四季を感じてもらっている。常に空調に配慮し空気清浄器や、時期に合わせて加湿器を使用している。	天井が高く、シーリングファンが爽やかに巡回しており、またBGMも流れていて、落ち着いた雰囲気があります。洗面台の鏡にはカラフルな樹脂シールが貼られ、女性職員ならではの心遣いも伝わります。玄関脇にはウッドデッキがあり、気候のよいときはお茶を飲みながら外気浴をおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子が置いてあり思い思いに過ごしている。相性や体調を考えて着席のときに気をつけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのあるもの(家具、寝具、仏壇等)を持ち込んでもらっている。配置も本人、家族、職員と相談して過ごしやすように配置している。	レースカーテンとエアコンが備え付けられていますが、ベッドや整理ダンスのほか、仏壇を持ち込んでいる人もいます。昨年の外部評価時には通常のベッドだった人が、介護用ベッドに切り替わっていて、状態変化があっても快適さが続くように支援していることを確認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルの向きや間隔を考えて配置し、転倒しないように工夫している。室内の動線上・座る場所・つかまる所に危険物がないか注意を払っている。職員間で情報を共有し、話し合いの場を作っている。		